

茨城県立緑岡高等学校



外観

茨城県立緑岡高等学校は、茨城県水戸市に位置する全日制男女共学の学校で生徒数は合計838人(2022年度現在)。1962(昭和37)年に普通科高校として開校。1969(昭和44)年には理数科も設置される。



体育館 器具庫

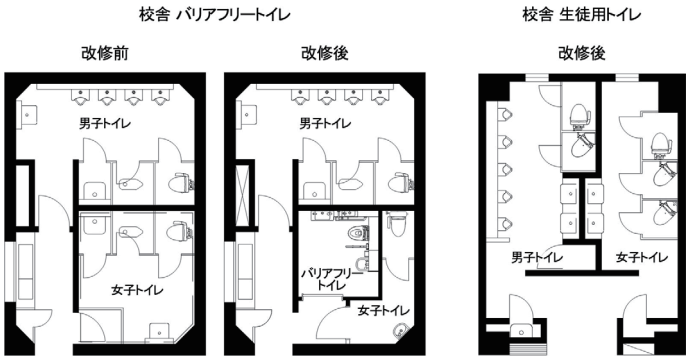
防災機能強化対応として、体育館と校舎の両方にバリアフリートイレを設置するため、体育館では、器具庫の一部スペースを活用して、バリアフリートイレを新設した。

体育館
バリアフリートイレ

災害時に学校が避難所として利用される場合を想定し、車いす使用者やオストメイトなどさまざまな身体状況の方に配慮して、コンパクト・バリアフリートイレパックを設置している。

トイレ図面

改修前はバリアフリートイレがなく、和式便器も多く残っていたが、今回スペースや工事範囲を工夫することで、生活様式の変化や社会のニーズに応えるトイレ環境が実現した。



校舎 トイレ入口

既存トイレの一部を改修し、校舎にもバリアフリートイレを設置。さらに、年齢や性別を問わずだれもが安心して利用できるよう配慮されたピクトサインを掲示、扉は明るい印象の黄色を採用している。



校舎 バリアフリートイレ

校舎のバリアフリートイレには、車いす使用者のほか、オストメイト配慮の機能や設備がコンパクトに収まった、コンパクト・バリアフリートイレパックを採用している。

校舎 女子トイレ
大便器ブース

校舎のトイレには、連続使用が可能なパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式にウォシュレットP(ノズルきれい付き)を設置している。

校舎 女子トイレ
大便器ブース
(コーナータイプ)

既存ブースをそのまま生かした改修のため、狭小ブースにおいては、コーナータイプの便器を採用。ウォシュレットには、ボタンを押すたびに発電し、電源工事や乾電池の交換が不要なエコリモコンを設置している。

校舎 職員用男性トイレ
大便器ブース

改修範囲を最小限に抑えるため、既存配管を利用できる和洋リモデル工法を活用し、和式便器から洋式便器へ改修。さらに、大便器に異物が詰まった際、メンテナンスがしやすい掃除口付きを採用している。



改修前

今回のリモデル改修範囲は、大便器の洋式化と温水洗浄便座の設置およびバリアフリートイレの新設で、小便器や洗面器は改修していない。



水まわりの特長

改修の経緯

茨城県水戸市に位置する「緑岡高等学校」は、“文武不岐の伝統精神のもとに教育活動を推進し、高い知性とたくましい心を持ち、社会に貢献する人材を育成する”が教育目標。普通科・理数科を置くスーパーサイエンスハイスクールの指定を受けた全日制男女共学の県立高等学校。茨城県では、生活様式の変化への対応と防災機能強化の観点から、平成30年度より、県立学校のトイレの洋式化とバリアフリートイレの整備を5ヶ年計画で開始。同校では、生活様式の変化への対応として、洋式便器に温水洗浄便座を設置。さらに、防災機能強化にも対応して、バリアフリートイレを校舎と体育館の両方に整備するなど設備の充実が図られた。

トイレの特長

バリアフリートイレがなかった同校では、体育館の器具倉庫の一部と、校舎女子トイレの2ブース分を改修して新設。性別を問わずにだれもが使いやすい空間として開放している。また、男女別のトイレは、生徒用と職員用との仕様を区別せず、県内の学校トイレの仕様の統一を図り、県の標準仕様であるパブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式とウォシュレットPを採用。改修範囲が限られる中、空間が狭いブースにはコーナータイプのタンク式便器を設置、生活様式の変化や社会のニーズに応えるトイレ環境が実現した。

建築概要

名称	茨城県立緑岡高等学校
所在地	茨城県水戸市笠原町1284
施主	茨城県
設計	株式会社池田設備設計事務所
竣工年月	(改修)2022年3月
構造・階数	鉄筋コンクリート造(校舎・体育館)・地上4階(校舎)、地上2階(体育館)

おもなTOTO使用機器

パブリックコンパクト便器・フラッシュタンク式:CFS498BMC
腰掛便器-CS510BM+SS510BABFS
ウォシュレットアプリコットP(温風乾燥付きエコリモコン):TCF5840AUP系
ウォシュレットPS(擬音装置「音姫」付きエコリモコン):TCF5534系
ウォシュレットP:TCF588/棚付二連紙巻器:YH702
コンパクト・バリアフリートイレパック:UADA*21R1D2AND1WA、UADA*01L1D2AND1WA
コンパクトオストメイトパック:UAS81RSC1NW